

ご挨拶



旭川赤十字病院 院長 真名瀬 博人

2025年4月1日付けで院長に就任いたしました。2020年4月に副院長就任してからちょうど5年になります。副院長就任当時は世界的に新型コロナウイルス感染（covid-19）が猛威を振るい、日本においても多くの方が感染し亡くなっているという危機的状態でありました。日本赤十字社の『苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る』というミッションを胸に当院職員は診療に当たり、当院連携医療機関の皆様も懸命に診療に当たっていただきました。covid-19による重篤な感染者が徐々に減少し、日本では2023年5月8日からcovid-19はインフルエンザと同様の5類感染症へと移行しましたが当院では今後もcovid-19やインフルエンザ等に感染対策を継続し、新興感染症を念頭に置いた対応策を準備してまいります。

旭川赤十字病院は1915年開設で本年は創立110年目に当たります。1978年に救命救急センターを設置し、以後毎年約5000台程度の救急車受け入れてきました。2009年には道北ドクターヘリの基地病院となり、その守備範囲は離島を含めた道北地域全般に及び日本で最も広い運航圏です。災害救助活動にも精力的に参加しており、昨年の能登半島地震では救護班の派遣を積極的に行いました。脳卒中診療は全国有数の症例数と高い診療実績を維持しています。2020年からは泌尿器科と外科、呼吸器外科でロボット手術を開始し、2022年から胸部X線AI診断も導入し安全で高度な医療を実践しています。2024年には乳腺外来を設置し乳癌診療を充実させ乳房再建も開始しました。2024年12月に外来フロアをリニューアルし消化器内科、循環器内科および総合診療科を移転しました。改修の大きな目的は外来心臓リハビリテーション室の設置ですが、混雑の解消や入院病棟までの導線確保にも役立っています。健診センターでは一般内科健診やがん検診、アンチエイジング検診、脳ドックや認知症検診も実施しています。2024年から新たな認知症治療薬を採用し、多くの患者さんに対応するため神経内科外来を2025年2月に移設拡充しました。

『旭川赤十字病院に紹介したい・受診したいが専門診療科を特定できない』場合に対応するため、2021年に受け入れ窓口として総合診療科を開設しました。救命救急ホットライン・地域連携ホットライン・脳卒中ホットライン・皮膚科ホットラインを設置し緊急性の高い患者の迅速で円滑な受け入れにも努めています。医師会を事業主体に市内5つの公的病院の診療情報が一元管理された『たいせつ安心医療ネット』を活用し当院連携医療機関の皆様と協力し『地域内1カルテ』を目指しています。

現在、日本においては高齢化や過疎化が急速に進行し人材不足が大きな社会問題になっています。それは医療においても同様で働き方改革とともに重い足かせになっています。当院では先述の胸部X線AI診断を導入するとともにRPA（Robotic Process Automation）を積極的に導入し業務の自動化を推進しています。現在は生成AIによる業務効率化や職員の負担軽減に取り組んでいます。これらIT化の推進は医療安全や医療サービスの品質向上にも多大な効果を生むと期待されています。

旭川赤十字病院は旭川市と共に、道北と共に創立から110年間発展してきました。これからも、地域の医療を、地域の人々を守るため各医療機関と協力して高度で質の高い医療を提供して参ります。そして、道北地区の人々が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献して参ります。

私は浅学非才ではありますが院長業務に全力で取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。